

国際金融論（2012春）中間試験

担当 岩村 英之

実施日 2012年5月28日

一般的な注意

- 講義で配布したプリントや自前のノート等，持ち込みは一切不可．
- 第1問および第2問は答えのみでよい．第3問～第6問については長文の説明はいらぬが，極端な不足のないよう（＝論理の飛躍がないよう）注意すること．なるべく解答用紙1枚（表裏）に収まるように．

1. 以下の各問に簡潔に答えなさい．答えのみでよい．ただし，(a)～(d)は{ }内から適当な語句を選びなさい（各3点）
 - (a) 我が国（日本）の資本収支は，この30年ほとんどの期間において{ 黒字 / 赤字 }である．
 - (b) 日本の企業が外国に製品を輸出するとき，ほとんどの場合{ 円建 / ドル建 / ユーロ建 }で契約される．
 - (c) 円がドルに対して減価し，ドルがユーロに対して増価したとする．このとき，円はユーロに対して{ 増価した / 減価した / どちらとも言えない }．
 - (d) ある年の日本の公的外貨準備増減が赤字であったとする．このとき，政府部門は外国為替市場で{ ドル売り介入 / ドル買い介入 }を行ったと考えられる．
 - (e) 今，ある年のある国の民間投資が250，財政赤字が50であったとする．さらに経常収支が70の赤字であったとすると，家計貯蓄はいくらか．
 - (f) ある時点における一国の対外資産残高から対外負債残高を差し引いたものを何とよめるか．
 - (g) ある金融資産がどれだけ容易に決済手段に変換できるかを表す性質を何とよめるか．
2. 以下のA～Cの取引は，国際収支表にどのように記録されるか．下の例のように表を自分で作成して答えなさい．全ての取引を同一の表に記してよいが，表中の各数字がどの取引に対応するのか，「例」のように明確にすること（各5点）

	貸方	借方
経常勘定	100万円（取引A）	
資本勘定		300万円（取引B）
公的外貨準備	200万円（取引C）	

表1: 第3問の答え方の例

- 取引A 日本の企業が中国の企業から衣類を5000万円分輸入し，代金を日本の銀行にある中国企業の口座に振り込んだ．
- 取引B アメリカの投資ファンドが日本の生命保険会社から日本政府の国債を3億円分購入し，代金を米国にある保険会社の口座に入金した．
- 取引C 日本政府がアフリカ某国に100トンの米（10億円分）を援助した．

3. 「経常収支へのアブソープション・アプローチ」について説明しなさい。また、「発展途上にある国は経常赤字を出す傾向が強い」という仮説を、アブソープション・アプローチを用いて論評しなさい (10+10=20点)
4. 金利平価モデルについて、以下の各問に答えなさい。
- 金利平価式を明記し、その考え方を簡潔に説明しなさい (前提条件など)。ただし、円建資産の利子率を i 、ドル建資産の利子率を i^* 、ドルの邦貨建為替レート¹の現在の値を E_0 、1年後の予想値 (厳密には期待値) を E_1^e とする (10点)
 - 今、 $i = 0.01$ 、 $i^* = 0.05$ 、 $E_1^e = 82$ であるとする。金利平価モデルに従えば、為替レートの現在の値は理論的にいくらになると考えられるか。小数点第2位以降は切り捨ててよい。(5点)
 - 今、アメリカ連邦準備銀行がドル金利を 0.03 に引き下げたとする。金利平価モデルに従えば、これによって現在の為替レートはどのような水準に変化するか。金利引き下げから新しい均衡に至るまでのプロセスを説明しつつ、答えなさい。小数点第2位以降は切り捨ててよい (10点)
5. 実質貨幣需要は債券の利子率にどのように影響されると考えられるか、説明しなさい (10点)
6. 80~90年代、米国の経常赤字は財政赤字の双子の弟であると言われた。「双子の弟」の意味するところは何であるか、説明しなさい (ヒント：経常収支と財政赤字を関連づけるアプローチを思い出してみよう。)(10点)

¹「邦貨建為替レート」とは、「1ドル80円」のような、自国通貨で測った外国通貨の価値のこと。日本では、通常為替レートは邦貨建で表示する。